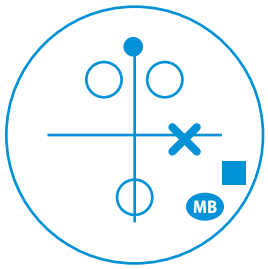
ボールの特性レポート
BALL REPORT

ボール名	投球者	センター
ストライクマシン	徳江 和則	平和島スターボウル

RG	△RG	
2.517	0.052	● ピン　★ PAP　✕ CG　■ バランスホール



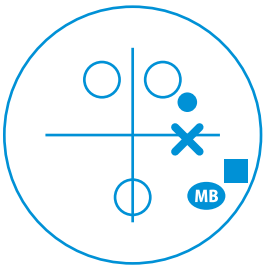
テストボール

フレアーの幅：　インチ

PAPからピンとの距離：5 1/2 インチ

表面加工：
- ☑ 箱出し状態
- ☐ 加工
- ☐ ペーパー　番
- ☐ ポリッシュ

研磨剤：



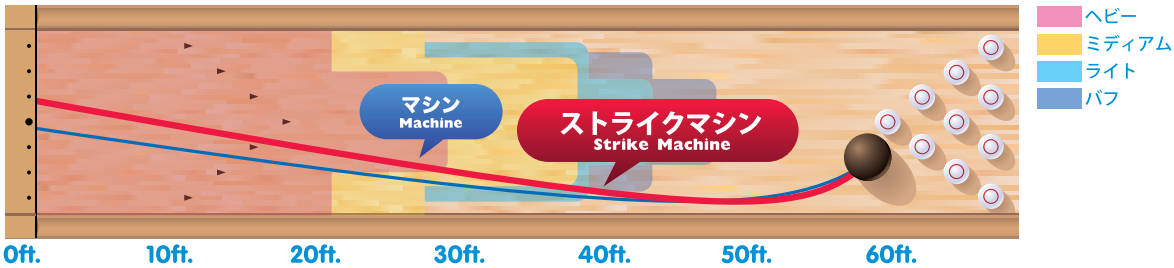
比較対照ボール：マシン

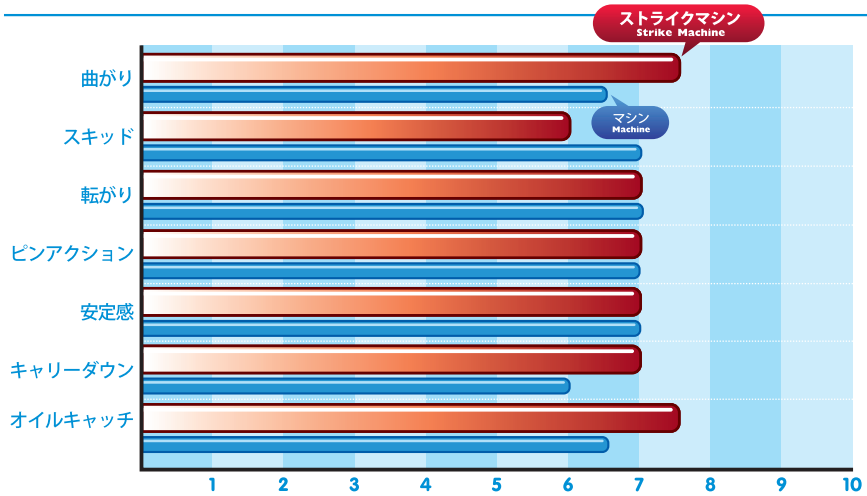
フレアーの幅：　インチ

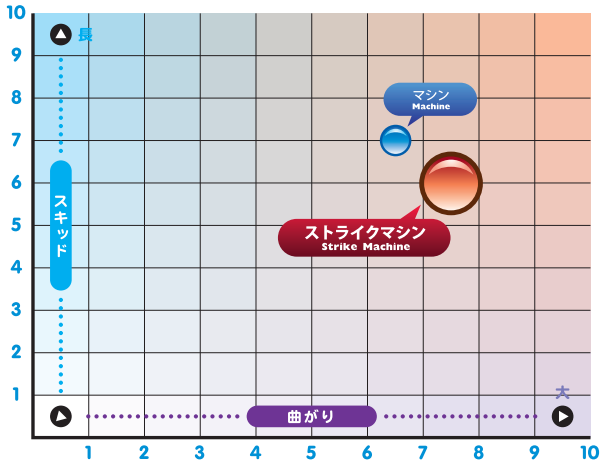
PAPからピンとの距離：4 3/4 インチ

表面加工：
- ☑ 箱出し状態
- ☐ 加工
- ☐ ペーパー　番
- ☐ ポリッシュ

研磨剤：







ボールの評価

この「ストライクマシン」は前回の「マシン」と比べ、**ナノトレッドという非常に繊維の細かいカバーストックを採用し、従来のリアクティブウレタンに比べて粒子を細かくすることにより、表面接地エリアを増加させることで総合的なキャッチ力向上を図っています。**また、ポリッシュされた光沢のある表面加工からは想像がつかないほど、オイル上でのキャッチ力とクリーンな走り、強烈なバックエンドリアクションを得ることができます。実際「マシン」と投球比較をしても、「マシン」のほうがおとなしく感じ、コントロールしやすく感じてしまうほど、**この「ストライクマシン」は過激としか言いようがありません。**当然先で角が出て大きく切れてしまう分ラインを大きく取らざるを得ませんが、バックエンドでしっかりと戻ってくるイメージが取れるので安心して外に向けて投球することができます。私の場合、ある程度タイトなラインを選択しなければいけないときは「マシン」を使用し、外に向けて出し戻しするコンディションには「ストライクマシン」を使用するでしょう。今まで発売された**トラック社の中で一番バックエンドが過激なボール**とも言える「ストライクマシン」は、モーリッチ社のラベージシリーズに勝るとも劣らない逸品のボールとも言えます。

特記事項

現在発売されている「マシン」と組み合わせでさまざまなコンディションに対応可能となりました。過激なバックエンドリアクションは想像を絶することでしょう。是非お試しください。